

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 1 日現在

機関番号：32688

研究種目：基盤研究 C

研究期間：2009 ～ 2011

課題番号：21530366

研究課題名（和文） 企業不祥事発生のメカニズムの解明と予知発見システムの開発

研究課題名（英文） A Study of Mechanism of Occurrences about Corporate Scandal in Food Industries

研究代表者 小林 猛久 (KOBAYASHI TAKEHISA)

和光大学・経済経営学部・准教授

研究者番号：40434211

研究成果の概要（和文）：本研究では、食品業界を対象として企業倫理を構成、維持するために必要な要因に関するアンケートを実施して、重視している内容や軽視している要因を抽出した。そして、軽視している要因と不祥事発生の関係を分析し、その原因と発生を抑制する要因を検討することを目的とした。

研究成果の概要（英文）：In this research we examined some cases of the corporate scandal in Japanese food industries. Secondly, we analyzed mechanism of occurrences about these. And finally, explained the proper method of protect and mentioned how the company should act in order to minimize damage by looking into what countermeasures should be taken for such crises as company scandals.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：経営学

科研費の分科・細目：社会・安全システム科学、危機管理

キーワード：経営学・企業倫理・CSR

## 1. 研究開始当初の背景

近年、様々な企業不祥事が多発しており、これまでのコーポレート・ガバナンス研究は、企業不祥事の発生を抑制する現実的な効力を発揮できていないのではないかという疑

問が拭いきれない。特に、資金力・組織力が不足する中小企業では、理想的な管理統制を行うことは困難な状況である。

そこで、本研究では企業不祥事の発生メカ

ニズムを解明し、その危険発生度を具体的な数値で表すシステムの構築を目指す。一般的に人間は、具体的な危険発生度がわかれば、その割合に応じて危険を回避する行動をとるものである。したがって、本システムの実現により、企業規模や資金力・組織力を問わず企業経営者に、不祥事を発生させる行動の回避を促すことができると期待するものである。

## 2. 研究の目的

本研究では地震・倒産などの予知システムと同様に、企業不祥事の発生メカニズムを解明し、その危険を事前に予知できるシステムを構築することで、その発生を抑制することを狙う。一般的に人間は、具体的な危険発生の可能性がわかれば、その割合に応じて危険を回避する行動をとるものである。したがって、企業不祥事が発生する危険度を診断し、その可能性を具体的な数値で表すことを実現できれば、企業規模や資金力・組織力を問わずその直面する危険を回避する行動を促し、結果として不祥事の発生を防ぐことが可能となると確信する。

## 3. 研究の方法

本研究では、企業不祥事の発生を抑制するメカニズムとして、コーポレート・ガバナンス、企業の社会的責任（CSR）、組織風土を中心にとらえ、図1に示す枠組みのなかでその発生メカニズムを解明するための要因について検討した。

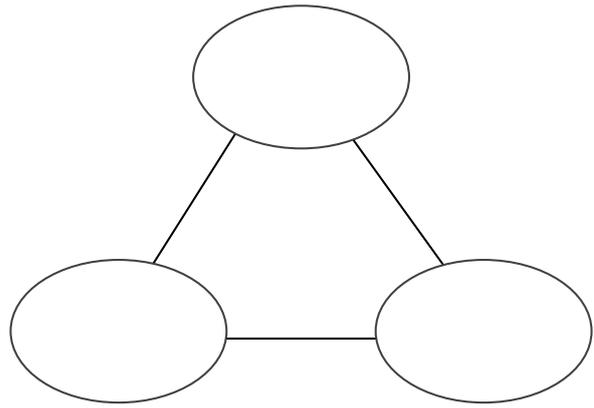


図1 研究フレームワーク

本研究は、食品業界の企業不祥事の発生メカニズムを解明するために、コーポレート・ガバナンス、企業の社会的責任（CSR）、組織風土の観点から、その発生要因を検討することを目的としている。そこで食品業界でこれまで何らかの不祥事を起こしたことがある企業とない企業でコーポレート・ガバナンスや企業の社会的責任（CSR）、組織風土に関する項目に差があるかどうかを検討することとした。まず、食品業界で過去に何らかの不祥事を起こしたことがある企業を検索し、調査対象となる食品業界の不祥事事件であることを確認のうえ、200社を抽出した。また、過去に不祥事の記録のない食品業界の企業を東洋経済新報社が1999年に発行した『日本の会社 74,000』のなかから抽出した。『日本の会社 74,000』では、74,000社が1998年の法人所得申告をもとに544業種別にランク付けされており、そのうちの食品業界のなかでランキング上位グループ、中位グループ、下位グループの3グループに分類をおこなった。そしてそのグループのなかからそれぞれ無作為に抽出をおこない、計600社を抽出した。したがって、過去に何らかの不祥事を起こしたことがある企業200社と過去に不祥事の記録がない企業600社の計800社にアンケ

ート調査票を郵送した。

そのうち、過去に何らかの不祥事を起こしたことのある企業 14 社（有効回答企業数 12 社）と、過去に不祥事の記録がない企業 24 社（有効回答企業数 24 社）の計 38 社からの回答を得た。回収率は 4.8%と非常に低い結果となった。また、質問項目によっては欠損値（無回答の項目など）があるため、項目毎に合計数が若干異なる場合もある。

#### 4. 研究成果

本研究による調査結果としては、まず、比較的重視されている要因である目標の達成値の設定、失敗の再発を防止するシステムの有無、クレームの集約・記録の有無が十分に機能しているかを確認しつつ、経営理念の変化、組織風土の変化の質を検証することが必要であることがわかった。そして、あまり重視されていない要因である社外取締役や外部監査の設置、内部通報システムの有無、失敗を周知するシステムの有無などが機能されているかを調査し、これらへの対策を講じることで、食品業界における企業不祥事の発生を抑制する一因となる可能性を見出した。

また、経営者自身が組織の風土を良い方向へ変える取り組みをおこなったり、従業員との情報共有をはかったりすることが、コーポレート・ガバナンスや企業の社会的責任（CSR）の推進につながることも確認できた。

本研究では、コーポレート・ガバナンス、企業の社会的責任（CSR）、組織風土に着目してきたが、さらにこれらの企業活動や文化・風土に関する相互関係を調査することで企業不祥事のみならずこれからの企業経営の在り方にインパクトを与えることができると考えられるので、次のステップの研究課題として設定することにした。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 6 件）

- ① 小林猛久、西岡久充、小林稔、杉本昌昭、食品業界における企業不祥事の発生メカニズムに関する研究、和光経済、査読有、Vol.44 No.3、2012、37-50
- ② 青木崇、日本企業の不祥事と倫理的経営者の育成条件—倫理的価値判断における経営者のリーダーシップ、経営管理、査読有、第586号、2011、16-24
- ③ 青木崇、企業不祥事の事後的対応をめぐる経営者の意思決定—倫理的価値判断と経営力—、高松大学研究紀要、査読無、第54号・55号合併号、2011、9-28
- ④ 青木崇、企業不祥事発生メカニズムと倫理的価値判断、現代社会研究、査読有、第7号、2010、153-160
- ⑤ 青木崇、企業不祥事のメカニズムと現代経営者の役割、日本経営倫理学会誌、査読有、第17号、2010、45-57
- ⑥ 山崎秀雄、組織の活性化・個の活性化・「信頼」を基盤としたマネジメントの実現に向けて、和光経済、査読有、Vol.42 No.2・3、2010、105-125

〔学会発表〕（計 2 件）

- ① 青木崇、企業不祥事をめぐる諸問題とコーポレート・ガバナンスの必要性、日本経営倫理学会中部地区研究部会、2012/1/28、相山女学園大学
- ② 小林猛久、食品業界における企業不祥事発生要因と危機管理コミュニケーションに関する一考察、日本貿易学会東部西部合同部会、2012/1/28、愛知学院大学栄サテライトセンター

〔図書〕（計 1 件）

- ① 小島大徳、創成社、株式会社の崩壊、2010、172

〔産業財産権〕

○出願状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計◇件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

小林 猛久 (KOBAYASHI TAKEHISA)  
和光大学・経済経営学部・准教授  
研究者番号：40434211

### (2) 研究分担者

小林 稔 (KOBAYASHI MINORU)  
和光大学・経済経営学部・教授  
研究者番号：50287926  
杉本 昌昭 (SUGIMOTO MASAOKI)  
和光大学・経済経営学部・准教授  
研究者番号：90318725  
山崎 秀雄 (YAMASAKI HIDEO)  
和光大学・経済経営学部・教授  
研究者番号：30366968  
西岡 久充 (NISHIOKA HISAMITSU)  
和光大学・経済経営学部・准教授  
研究者番号：10513757  
小島 大徳 (KOJIMA HIROTOKU)  
神奈川大学・経営学部・准教授  
研究者番号：70386803  
青木 崇 (AOKI TAKASHI)  
愛知淑徳大学・キャリアセンター・助教  
研究者番号：00528698

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：